
恐怖の大魔王 2007

あゆみかん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恐怖の大魔王2007

【Nコード】

N0025E

【作者名】

あゆみかん

【あらすじ】

【コメデイノ短編】 出会いは突然。こんな話も突然です（久々のサラッと読もう軽快シリーズ第何弾めだ？）

僕は、学校帰りの途中だった。黒いランドセルは僕がまだ小学生である証だ。

いつもの帰り道　いつもと同じ頃の時間の帰宅、いつもと同じテンションで僕は歩いてきた。少し行けば横には田んぼや畑が広がっている。車線も引かれていない狭めの道路を、僕は道なりにだけど真っ直ぐに歩いてきた。

すると突然だ。僕の真上から、恐らく電柱の上から飛んで落ちてきたんだろっ、いや飛んで『降りて』きたのか。誰かが降ってきた。ストンと着地する。

黒い長つたらしい厚いマントを翻して、カツコつけていた。両手は腰に当てて仁王立ちだ。

「……………」
僕は、一応驚いて　そいつを見ていた。突然の事に頭の中の司令部がストップし、僕の動きを止めていたのだ。

「……………」
僕は、相手の　お腹を見た。まあまあ細い体型で白い服を着ていたんだが。堂々と墨で書いたような字で縦書きで、こう書かれていた。

恐怖の大魔王　2　0　0　7

「……………」
また僕の頭の中の司令部が啞然とし、僕の動きを止めている。
恐怖の……………？

いや、それより。

「今年2008年ですけど」

僕は言ってみた。

すると相手は。

「おっと間違えた」

そんな事を言つて、「とうっ」という掛け声と共にジャンプして空高く何処かへ消えていった。

空には空気と夕方の始まる色が広がる。

消えたなあ、あの人。

「去年何か事件でもあったっけ」

僕は考えた。特に何か恐怖と大魔王に関する事件があったとは聞いた事は無い。

という事は。

「何処に行つたんだろう」

僕の眩きには周囲からの誰も返事は来なかった。

《END》

(後書き)

【あとがき】

何を思っ書いたか不明です。

ただ、はやらないという理由から危うくゴミ箱という別名の『短編集』行きになる所でありました。よかったね(そうかな?)

ご感想などあれば お気軽にどうぞです。

ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0025e/>

恐怖の大魔王 2007

2010年11月18日10時17分発行